

氏名	金さやか	部署	看護学科	職名	助教
研究分野	成人看護学、眼科看護				
学位	修士(看護学)				
学歴	慶應義塾大学看護医療学部看護学科卒業、2015年埼玉県立大学大学院修了				
経歴	2014年東京工科大学助手、2015年埼玉県立大学助教				
所属学会(役職)	日本視機能看護学会、日本看護科学学会、日本公衆衛生学会、日本健康医学会、日本看護教育学会 日本リハビリテーション連携科学学会第、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

【2019年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	埼玉県の通所介護における個別機能訓練加算(Ⅱ)の算定状況と課題:個別機能訓練指導員の保有資格による影響	共著	あり	リハビリテーション連携科学. 20(2), 167-173	○常盤文枝, 臼倉京子, 張平平, 金さやか, 他.	2019.12
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者(発表者は○印)	発表等年月
1	The state of psychological distress in Japanese Narcolepsy patients	共同		ICPM25th, Florence	○Sayaka Kon, Chieko Kato, Yoshiomi Otsuka, Takako Negishi, Kouichirou Aoki.	2019.9
2	Process of dealing with stress of husbands providing care for dementia afflicted wives — male caregivers in Japan	共同		ICPM25th, Florence	○Takako Negishi, Chieko Kato, Sayaka Kon	2019.9
3	Efforts to improve daily life performance in community-living elderly people who use daycare services -Review of Japanese literature-	共同		Advanced Nursing-2019 Global Conference on Nursing Care & Education ,Rome	○Pingping Zhang, Kyoko Usukura, Fumie Tokiwa, Sayaka Kon, et al.	2019.9
4	大学生のメンタルヘルスに対するヨガの有効性	共同		日本発達心理学会第31回大会, 大阪	○加藤祥子, 加藤千恵子, 喜岡恵子, 青木滉一郎, 金さやか他	2020.3
5	ナルコレプシー患者の病気体験の認識と影響	共同		日本リハビリテーション連携科学学会第21回大会, 越谷	○金さやか, 加藤千恵子, 大塚佳臣, 根岸貴子, 青木滉一郎	2020.3
6	通所介護における生活行為の課題解決に向けた機能訓練指導研修会プログラムの作成と実際	共同		日本リハビリテーション連携科学学会第21回大会, 越谷	○常盤文枝, 臼倉文枝, 小池裕二, 河合綾香, 菊本東陽, 金さやか, 張平平	2020.3
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者(発表者は○印)	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(若手B)			角膜移植レシピエントのQOL評価尺度の開発	研究代表者	2017.4~2020.3
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(挑戦的・萌芽)			通所介護における生活行為向上を視点としたマネジメントモデルの開発	研究分担者	2017.4~2020.3
3	一般財団法人順天堂精神医学研究所研究助成金 2019年度			ナルコレプシー患者のメンタルヘルス ~Benefit findに着眼して~	研究責任者	2019.4~2020.3

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	成人看護学Ⅳ		2	中途障害をテーマとし、リウマ、ALS、視覚障害者の看護について講義を行った。映像を用いて学生の理解が深まるよう授業を工夫した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	臨床実践看護		15	シミュレーション教育を取り入れ、より実践的な教育を行った。
2	成人看護学Ⅲ		6	看護過程のPBLにおいて、学生の学習を促すファシリテートを行った。
3	成人看護学Ⅳ		10	呼吸聴診法の演習において新たな教授方法を実践した。血糖測定の指導では、安全・確実な技術を身に付けられるよう支援した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習:期間 学内実習:コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	成人看護学実習Ⅱ	○	2019.5～6	科目責任者として実習が円滑に行えるよう運営に努めた。慢性期及び終末期患者への看護について、実践的な教育を行った。
2	成人看護学実習Ⅲ		2019.9 8コマ	災害時の病院の機能や役割を学ぶことができるよう、支援をした。
3	総合実習		2019.7～9	各自で設定した学習課題を達成できるよう支援を行なった。
4	IPW実習		2019.1	4年次の学生が、臨床現場において、患者を中心としたチームの形成と多職種連携が学べるよう臨地にて支援した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業研究	2019.2～2019.12	主指導 2名	副指導 名
(5) その他				
	名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)	
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	該当なし			
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	該当なし			
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	埼玉県	埼玉県防犯サポーターとして、地域安全に貢献した。	2019.4～
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	大学広報活動	オープンキャンパスで、シミュレーター使用の技術演習の体験を企画した。		2019.8
2	大学広報活動	高校出張講座を通して、看護の魅力を伝える活動を行った。		2019.10～11
3	学長指定プロジェクトへの関与	研究開発センターBプロジェクトに参加し、メンバーとしての役割を果たした。		2019.4～2020.3
4	学科等における委員会等	担任として、学生のフォローアップを行った。		2019.4～2020.3
5	学科等における委員会等	実習計画調整委員として、実習が円滑に行われるよう調整業務を行った。臨地実習指導者研修会では、「看護学生の特徴」をテーマに講義を行った。		2020.2
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				